

# KELES Newsletter



## 2007年度第2号

事務局：〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

関西大学 外国語教育研究機構 吉田信介研究室内

Tel:06(6368)0477 e-mail: keles@infoseek.jp URL:http://keles.hp.infoseek.co.jp/ 2007年9月25日発行

### 会長挨拶

#### 16年間一貫の英語教育制度の必要性

「暑さ寒さも彼岸まで。」と、古来人口に膾炙されている表現は、もはや死語になってしまったのでしょうか。記録破りの猛暑の日々が続いた今夏の暑さは未だ去ってはいないように想われます。しかしながら、小・中・高校では2学期、短大・大学では後期（秋学期）が既に始まっています。児童・生徒・学生の指導や校務で多忙な日々をお元気に活躍されている会員の皆様方を想っております。

8月4日・5日の第33回全国英語教育学会・大分研究大会、および、9月6日～8日の第46回大学英語教育学会全国大会（広島）に参加し、研究発表を聴き、参会者の方々と話し合う機会を持ちました。後者の大会テーマは「小中高大を見通した大学英語教育——環したカリキュラムを求めて——」でした。

全国英語教育学会は、私達の関西英語教育学会も他の七地区の学会と共に、その一翼を担う全国規模の学会です。大学英語教育学会は会員が大学・短大の教員であることを除けば、同様に全国規模の学会であり、ともに日本の英語教育研究を推進している学会です。この両学会の研究大会に参加しての感想は、小学校から大学までの16年間を連続したカリキュラムで教育する制度を早急に確立する必要性を痛感したことでした。

既にマスコミ等々でも報じられていますように、近い将来には①近隣のアジア諸国でも英語が第二言語としての比重を更に増すであろうこと、②英語が実質的に世界の通用語としての重要性をさらに増すであろうこと、は間違いなさそうに思えます。

現状のままでは、日本は世界の通用語としての英語を通用語として自由には活用できない言語孤児国家になる恐れがあります。その恐れを払拭

する必要性を会員の皆様方も痛感されていることを、発表に耳を傾けながら想っていました。両研究大会の発表要項をつぶさに拝見しますと、個々の研究発表は単独の発表でありながら、全体としては、やはり日本の英語教育を更に改変して前進させなければならない、との強い思いが込められた発表が為されています。

一人の力は実に微々たるものでしかありません。しかし皆で協力して一丸となれば、大きな力となりますから、会員が一丸となって教育研究をさらに推進させる必要を痛感します。情報交換を密にしながら、今後とも英語教育研究実践活動に励むことの大切さを再認しています。会員の皆様方、如何思われますでしょうか。（瀬川 俊一）

### 第33回全国英語教育学会大分研究大会報告

第33回・全国英語教育学会大分研究大会が、本年8月4日（土）・5日（日）の二日間にわたり、九州英語教育学会が担当地区となり、大分大学旦野原キャンパスに於いて開催されました。大会当日を直撃するのではないかと案じられていた台風一過後の晴天に恵まれての研究大会であったことを先ず報告しておきます。自由研究発表数は190件を超え、そのため予稿集も今回初めて二分冊となり、第1冊286頁、第2冊343頁、総頁数629頁の大部な冊子となりました。参加者数も700名を超える盛会でした。1975

（昭和50）年に開催された第一回高知研究大会の発表者数56件に比して、約3.5倍の研究発表数となっています。英語教育研究への関心の高まりを表わす特筆すべき指標と言えます。今大会では二日間に19室で研究発表が行われたため、参会者には、どの発表を聴くかの選択が難しかったのではないかと思います。事前にテーマを決めて聴く予定をしていますが、同一時間帯に複数の研究発表が行われていたからです。日程上やむを得

ないこととは言え、希望するすべての発表を聴けず、残念な思いを懐いた参会者の方も決して少なくは無かったのではないのでしょうか。大会期間を三日間にすることも今後の検討課題かも知れません。

本学会会員も多数参加し、研究発表者、司会者、問題別討論会提案者、として活躍されました。問題別討論会では、本学会は「音声研究・音声指導への新しい視点」と題して、藪内智先生をコーディネータに、提案者には有本純、里井久輝、玉井健、藪内智、の各先生方による提案・討議を展開して頂きました。参加者も多く熱心に発表に耳を傾けながらメモを執る参会者の姿が印象的でした。各パネリストの提案は抽象的で高度な理論のみではなく、教室での教育実践に役立つ具体的な提案が多く含まれており、理論と実践の融和を意図して教育研究を推進し続けている本学会の基本姿勢を見事に具現化する発表であった、との思いです。

本学会会員の方々の発表を紹介する紙数が無いのを残念に思います。何れの発表も資料を収集分析し統計手法で仮説に対する一つの結論を導き出す手堅い研究方法に基づく研究発表であったことを報告しておきます。研究大会に参会された方々は予稿集で内容を再確認し、参会されなかった会員の方々は参会者から情報を入手されて、今後の教育研究に活用されますようお褒めいたします。

大会の掉尾を飾るシンポジウムは「日本の英語教育の将来—中学生に求められる英語の基礎体力—」と題して四国英語教育学会の担当で行われました。中高一貫、高大一貫、小中一貫、の必要性が論じられていた時代から、大学全入時代の到来に伴ない、＜小中高大一環教育＞の時代へと移行していることを痛切に感じる内容のシンポジウムでした。

理論研究の推進とともに、地道な日々の教育実践の蓄積の大切さを再認しながら、ささやかな報告を終わります。

(会長 瀬川俊一)

### 第33回全国英語教育学会大分研究大会 「課題研究フォーラム(KELES担当)」報告

2007年8月に開催された標記大会において、関西英語教育学会は「音声研究・音声指導の新しい視点」というテーマで問題別討論会を企画・運営しました。この討論会では、音声産出面に焦点を

あて、分節的特徴、リズム、イントネーションについて各論し、音声研究の新しい視点を紹介し、また、体系的な音声指導を展望することを目指しました。有本純(関西国際大学)、里井久輝(摂南大学)、玉井健(神戸市外国語大学)、藪内智(京都精華大学)の4名が提案者として発表しました。「聞くこと」「話すこと」が重要視され、音声指導の重要性が増していることもあり、参会者の方々もとても熱心に耳を傾けてくださいました。また、質疑応答なども活発に行われ、有意義な意見交換ができたことと思います。問題別討論会だけでなく、懇親会でも多くの方から声をかけていただいたことから、本企画は成功であったといえると思います。以下、各提案者の発表内容の要約を示します。

藪内は、「音声研究の動向—理論から実践へ—」というタイトルで、音声研究の現状や動向について概観しました。心理言語学、認知心理学、対照言語学、音韻論・音声学、コーパス研究、教育工学、教育心理学などの視点から、音声指導や音声研究にあたってさまざまなヒントがあることを述べました。

有本氏は、「個別音の発音指導」というテーマで、主にセグメントの指導について発表されました。まず、従来英語の発音指導では、アメリカ英語を発音のモデルとして採用してきたが、果たしてそれでいいのか、国際語としての英語の立場から日本人英語学習者の英語発音目標を捉えることのできるのではないかという見解を示されました。続いて、発音指導の問題点や教師の役割について言及され、個別音の指導では、導入指導における原則は、児童・生徒に分かり易いことばで、調音法を説明すること、また、矯正指導では学習者の問題点が、発音を聞いてその場で原因が分かり適切に判断する事が、教師に求められることを指摘されました。

玉井氏の報告は、「プロソディックな情報学習にフォーカスした音声指導」というテーマで、現在パイロット的に実施している調査の中間報告をしながら、リスニングの多面性を視野に入れながら、イントネーション、リズム、チャンキングそして文法の結びつきを考えるという内容でした。プロソディック情報のもつ意味、繰り返しと運動の意味、日本語と英語の韻律構造の違いによる日本人英語学習者の有利・不利、そして、韻律と文法の意味について説明があり、それを踏まえてトータルな形で音の鑄型習得のための学習について示唆を与えてくださいました。

最後に、里井氏は、「イントネーション指導の可能性」というテーマで、日本人英語学習者がどのようにすれば有効にイントネーションを習得することが可能であるかについて発表されました。具体的には、日本語と英語のプロソディを視野に入れつつ、イントネーションの本体である相対的な高低ピッチ変化の観点から考察し、日本人英語学習者にとって有用なイントネーション指導を考えるというものでした。

(副会長 藪内 智)

## KELES第6回セミナー(大阪地区)報告

関西大学千里山キャンパス(2007/7/7)において、水本 篤先生(流通科学大学)、アシスタント杉田麻哉氏(関西大学大学院博士課程)による統計学ワークショップが行われた。当日は25名の参加者があり、Excelのアドイン分析ツールを用いて、英語教育の現場において必要な基本的な統計分析手法をHands-onで学ぶことができた。実習内容は、1)テストの記述統計(平均、分散、標準偏差)、2)相関係数、信頼性係数、3)t検定、分散分析と幅広く、SPSSのような統計ソフトを用いなくても、周到に用意されたExcelシートを用いて、入門者においても比較的簡易に統計分析が可能であることが実証された。セミナー後のアンケートでは、参加者の満足度が高く、今後、カイ自乗検定、クラスター分析、因子分析等の上級編を望む声があった一方で、時間延長やExcelの習熟度別によるグループ分けが必要であるとの意見もあった。

(報告:吉田信介)

## KELES第7回セミナー(神戸地区)のご案内

前回の大阪セミナーに引き続き、今回は神戸にてセミナーが開催されます。横田玲子氏(神戸市外国語大学)を講師に、「小学校英語活動 "訪ねて、数えて、歌って、踊って"—Authenticityを考慮した英語での工作活動」と題して、英語を用いながら活動を進めるにはどのような方法があるのかについて、実際に活動をして学んでいただきます。詳しくは、同封の案内状をご覧ください。

参加ご希望の方は、電子メール(件名:「セミナー申し込み」)にて、お名前、ご所属、会員・非会員の別を明記のうえ、oka@uhe.ac.jpまでお申し込みください。なお、申し込み受付は、10月5日(金)からとさせていただきます。定員になり次第締め切らせていただきますとともに、学会

HPにてその旨お知らせいたします。

○日時:2007年10月20日(土)14:30~16:00

○受付開始:午後2時10分

○会場:(神戸)三宮研修センター  
神戸市中央区八幡通4-2-12

Tel:(078)232-0081

○交通:JR,阪神,阪急の三宮駅中央改札口から  
「ラポート」を南へ徒歩3分、神戸市役所向側

○定員:先着20名

○費用:会員無料、非会員500円  
(会計 岡 良和)

## KELES第8回セミナー(京都地区)のご案内

○日程:2007年12月16日(日)

○題目:「英語教育に役立つインターネットサイト活用術」

○講師:石川保茂氏(京都外国語大学)

## 第11回卒論修論研究発表セミナーのご案内

○日程:2008年2月16日(土)

○会場:流通科学大学(神戸市西区学園西町)

○発表申込期間:2008年1月10日(木)~24日(木)

○発表申込方法:発表要旨を日本語約200字または英語約100語

○発表言語:英語または日本語

○研究領域:外国語教育,言語教育,及び関連分野

※詳細は今後発行のNewsletterおよび学会ホームページをご覧ください。

## 全国理事会報告

○第34回全国英語教育学会 東京研究大会

・会場:昭和女子大学

・日程:2008年 8月9日,10日

・研究発表申込締切:5月23日(金)

・予稿集用原稿締切:6月13日(金)

・KELES担当企画:課題研究フォーラム(1年目)

○第35回全国英語教育学会 鳥取研究大会

・会場:鳥取大学 湖山キャンパス

・日程:2009年8月8日,9日

・KELES担当企画:課題研究フォーラム(2年目)

○紀要(ARELE)第18号

・掲載論文:26篇

・学会賞:岡本真由美氏(KELES所属)

○紀要(ARELE)第19号

・申込締切:8月31日(金)

・応募論文締切:10月31日(水)

- ・執筆要領：APA第5版に準拠
- ・審査結果通知：2008年2月初旬
- ・紀要第19号刊行：2008年3月末

太田 恵子      須佐美 恵子      北村 友美子  
 鈴木 しのぶ      小林 千穂  
 (会員名簿担当 倉本充子)

## KELES紀要SELT31号の投稿募集

紀要31号への投稿は10月末日締切です(厳守)。本年度のKELES大会、および全国英語教育学会大分研究大会での発表済み論文が優先されますが、上記での発表を経ない論文も、一定の枠内で審査対象となります。

会員の皆様のふるってのご投稿をお待ちいたしております。

### <投稿の注意>

- (1) 投稿要領を熟読すること。
- (2) 必ず学会テンプレートを使用すること。
- (3) 提出はeメールの添付ファイルとすること。
- (4) 提出と同時に、ウェブ上の論文調査票をメール本文に張り付けすること。
- (5) 提出先：編集委員会

iskwshin@kobe-u.ac.jp

※ 詳細は学会HP

<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>をご覧ください。

### <刊行までの予定>

10月1日 投稿受付開始  
 10月末日 投稿受付締切  
 11月末日 査読結果通知  
 1月末日 修正原稿締切  
 3月末日 刊行

(紀要編集委員長 石川慎一郎)

## 新入会員紹介 6月2日～9月1日 (敬称略)

西澤 弘喜      松永 舞      平柳 行雄

## 会費納入のお願い

年会費は以下の通りです。

1. 一般会員 (関西のみ) 5,000円
2. 一般会員 (関西+全国) 7,000円
3. 学生会員 (関西のみ) 3,000円
4. 学生会員 (関西+全国) 5,000円

未納の方には、「納入のお願い」と「振込票」を同封させていただきました。なお、会費納入などに関するお問い合わせは、会計 岡 良和 [oka@uhe.ac.jp] までお願いいたします。

(会計 岡 良和)

※ 2008年度の研究大会発表資格につきましては、別紙をご参照下さい。

## 紀要DVD販売のお知らせ

待望の紀要DVDが刊行！

英語教育研究の全貌をPC画面に！

会員特別価格 3,000円

『英語教育研究』過去28年分、『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』過去9年分(いずれも2005年度刊行分まで)を全て電子化。鮮明な画像で論文を通読できるほか、OCRによるテキスト情報を埋め込みましたので、論文内の単語などでの検索も可能になりました(ただし、OCRの認識率は100%ではなく、完全な検索はできません)。

KELESの歩みの記録として、また、英語教育研究の必携情報レポジトリとして、ぜひお手元におそろえください。なお、購入に関するお問い合わせは、会計岡 良和[oka@uhe.ac.jp]までお願いいたします。

最新情報が学会HPにて随時更新されますので、  
 頻繁に閲覧いただきますようお願いいたします。

<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

KELES 2008年度研究大会の日程案が決まりました。

○日程：2008年5月24日(土)

★2008年は全1日の日程で実施します。

○会場：神戸大学国際文化学部キャンパス

(※今後、変更の可能性もあります。)

## 2008年度研究大会発表資格取得のための会費納入期限

所属学会		全国英語教育学会 (JSELE)		
		関西英語教育学会 (KELES)		
発表形態		全発表	単独・共同発表代表	共同発表代表以外
会費納入期限		2008年5月初旬	2008年2月末日 <sup>※1</sup>	2008年6月初旬
大会日程		2008年5月最終週末	2008年8月第1週頃	
会費	一般	5000円	7000円 <sup>※2</sup> (含KELES会費)	
	学生	3000円	5000円 <sup>※2</sup> (含KELES会費)	

※1: JSELEの発表資格は、前年度(2007年度)納入済者に限ります。

※2: JSELEの入会資格として地区学会(KELES)会員である必要があります。

2007年9月1日現在

## KELES年間活動計画

月	日	イベント名	会場	講師	内容
5	26(土),27(日)	研究大会	摂南大学	東 照二氏	社会言語学
7	7(土)	セミナー06	大阪: 関西大学	水本 篤氏	Excel 統計
10	20(土)	セミナー07	神戸: 三宮研修センター	横田礼子氏	小学校英語活動
12	16(日)	セミナー08	京都: 京都外国語大学	石川保茂氏	Internetの教育活用
H20. 2	2(土)予定	セミナー09	奈良(会場未定)		
	16(土)	第11回卒修セミナー	流通科学大学		
3	未定	セミナー10	和歌山(会場未定)		
5	24(土)	研究大会	神戸大学		

KELES第7回セミナー(神戸地区)のご案内

「小学校英語活動 ”訪ねて、数えて、歌って、踊って”  
—Authenticityを考慮した英語での工作活動」

講師:横田 礼子 氏(神戸市外国語大学)

- ◆ 日時：2007年10月20日(土) 14:30～16:00 (受付 14:10 開始)
- ◆ 会場：(神戸) 三宮研修センター
- ◆ 交通：JR・阪神・阪急の三宮駅中央改札口からフラワーロードを南へ徒歩3分、神戸市役所向側。→裏面地図参照
- ◆ 定員：20名 (事前申込で先着順)
- ◆ 会費：KELES 会員無料，非会員 500 円
- ◆ 申込方法
  - ◇ 電子メールでのみ受け付けます。
  - ◇ 申込先：会計 岡 良和 [oka@uhe.ac.jp](mailto:oka@uhe.ac.jp)
  - ◇ メール の 件 名：「セミナー申し込み」
  - ◇ メール の 本 文：「氏名、所属、会員・非会員の別を明記」
- ◆ 申込期間：10月5日(金) 午前6時受付開始、定員になり次第締切り。
- ◆ 概要：小学校の教室の中は色、数など、教材にあふれています。実際の物を使って本当のことを、本当のコンテクストの中で英語を用いながら活動を進めるにはどのような方法があるか、実際にひとつの活動を通して学びましょう。言葉を通して人とかかわること、そしてそこに集う人が楽しく良い経験ができるように自分にできることを考え行動すること、インストラクションの一語一語を全部わからなくても判断しつつ進んでいくこと、など言語学習に必要な要素、また学校教育という視点から見た教育的価値を考えながら簡単で楽しい工作をしたいと思います。材料はこちらで用意します。参加されるかたは「好奇心」と「笑顔」をご持参ください。また私自身が小学校教員として実践したいくつかの教材、また現在かかわっている小学校で実施しているプロジェクトも紹介したいと思います。
- ◆ 講師略歴  
公立小学校教諭6年、文科省派遣香港日本人学校教諭3年を経て渡米。ウェスタンミシガン大学でMA in TESL、アリゾナ大学でPh.D. in Language, Reading and Culture 取得後帰国。静岡県沼津市にある加藤学園暁秀初等学校・英語イマージョンプログラムで5年間の教諭をへて、2004年度より神戸市外国語大学大学院英語教育学専攻児童英語コース准教授。

# 三宮研修センター

〒651-0085 神戸市中央区八幡通4丁目2番12号

TEL : 078(232)0081

<http://www.f-road.co.jp/kenshu/index.htm>

